

Corporate Profile

創業者の思い

古河グループの創業者である古河市兵衛は、
「日本を明るくしたい」という思いのもと、

従業員を大切にせよ

お客様を大切にせよ

新技術を大切にせよ

そして、

社会に役立つことをせよ

と語っていました。当社は、この言葉をDNAとして大切に紡ぎ、1884年の創業以来邁進してきました。「3つの大切」をしっかりと受け継ぎ、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



創業者 古河市兵衛

古河電工グループの理念体系

古河電工グループ パーパス

古河電工グループ パーパス

**「つづく」をつくり、
世界を明るくする。**

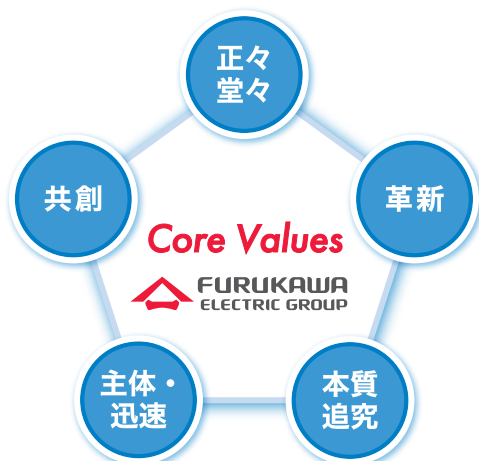
日々の当たり前の暮らしが、安心・快適につづくこと。
今日よりも豊かな明日へ、社会の進歩・発展がつづくこと。
人と地球の共生が、いつまでも幸せにつづくこと。

よりよい未来へとつながる、そんな「つづく」を、
絶え間ないイノベーションで、つくり、支える。
それが、私たちの存在意義。

さまざまな社会課題に向き合い、
インフラをはじめ、あらゆる領域を超えて挑戦する。
1884年の創業以来、誠実に磨きつけてきた、
技術力と提案力を強みに。

私たちは今日もつくりだす、未来への「つづく」を。
世界を明るくするために。

Core Values (コア・バリュー)



古河電工グループ ビジョン2030

古河電工グループは「地球環境を守り」
「安全・安心・快適な生活を実現する」ため、
情報/エネルギー/モビリティが融合した社会基盤を創る。



中期経営計画2022～2025と2030年のありたい姿

古河電工グループは、2025年度を最終年度とした中期経営計画を策定しました。本中計では、古河電工グループ ビジョン2030の達成に向け、「資本効率重視による既存事業の収益最大化」および「開発力・提案力の強化による新事業創出に向けた基盤整備」を推進していきます。

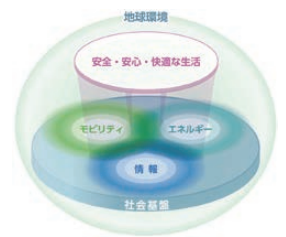
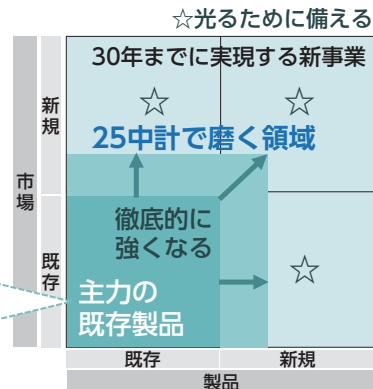


Forward-looking

2025年に向けた資本効率重視による既存事業の収益最大化

2030年までに実現する新事業創出に向けた基盤整備

Backcasting



古河電工グループ ビジョン2030

2025年に
めざす姿

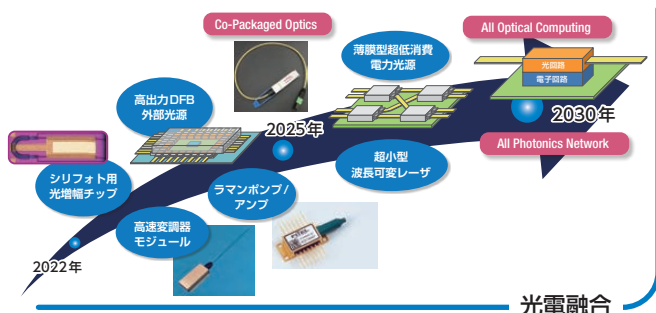
社会課題解決型事業の強化による成長の実現

2030年の
ありたい姿

社会課題解決型事業の創出による飛躍

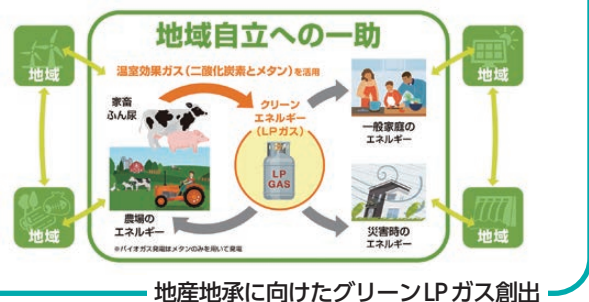
情報

Beyond5G社会の実現 フォトニクス技術で支え社会基盤を構築



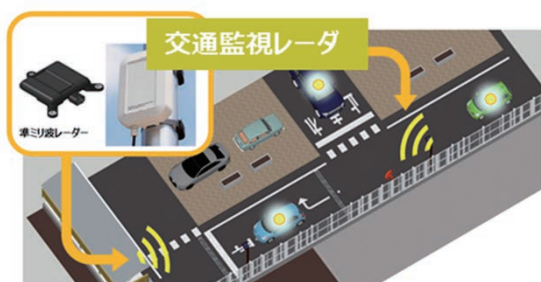
エネルギー

カーボンニュートラルの実現 豊富な経験と技術力で、インフラ強化と資源循環型社会を実現



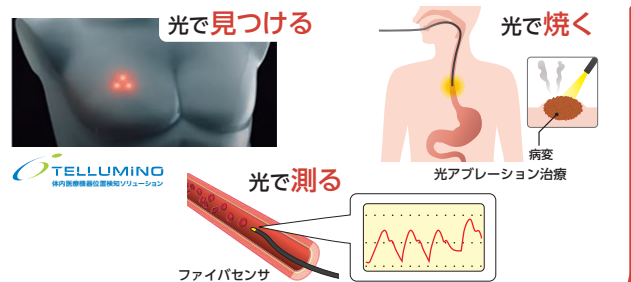
モビリティ

移動の自由の享受 部品、システム、アプリケーションの提供で安全/安心な移動を実現



新領域

安全/安心への社会要請 光技術を応用した医療グレード品質の機器開発を通じ、安全・安心な医療に貢献



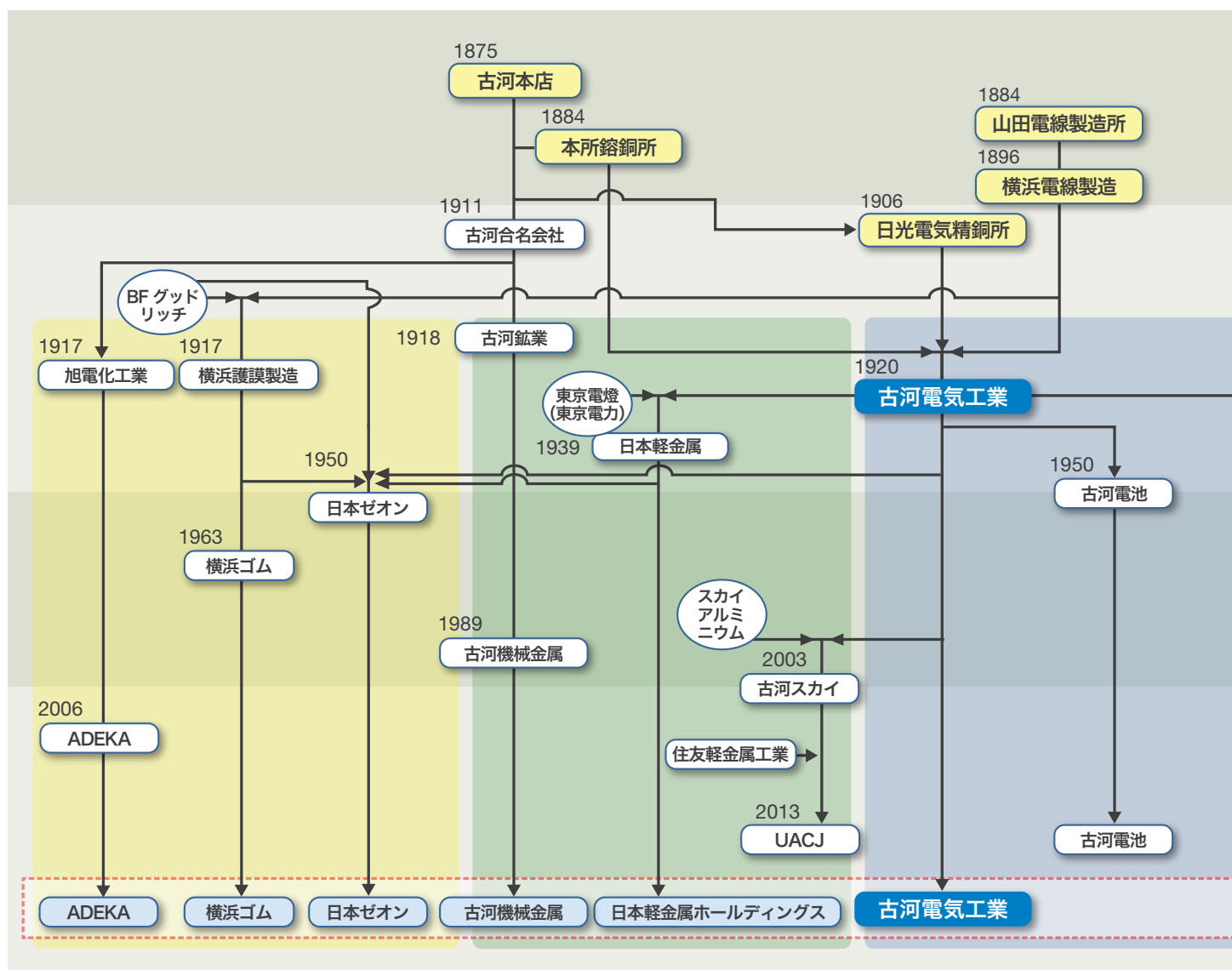
※上記は各領域における事業創出の一例

サーキュラー・エコノミーの実現

古河グループ主要企業沿革

古河グループ

古河グループは、現在、メンバー会社51社をもって任意団体の古河三水会を構成し、10社の理事会社を中核として



古河三水会 理事会社 10 社

古河電工の歩み



本所鋳銅所、山田電線製造所の開設。伸銅品と電線のメーカーとして創業

1884



電気銅線製造を開始

1889



対馬海峡に世界初の無装荷搬送海底ケーブルを敷設

1915



全自動高精度6段圧延機を開発

1937



ブラジルにアルミ電力ケーブル製造販売会社を設立

1958

日本初の電気分銅の試験操業を開始



日本初の海底電線を製造



東京タワーにアンテナ・給電線を設置



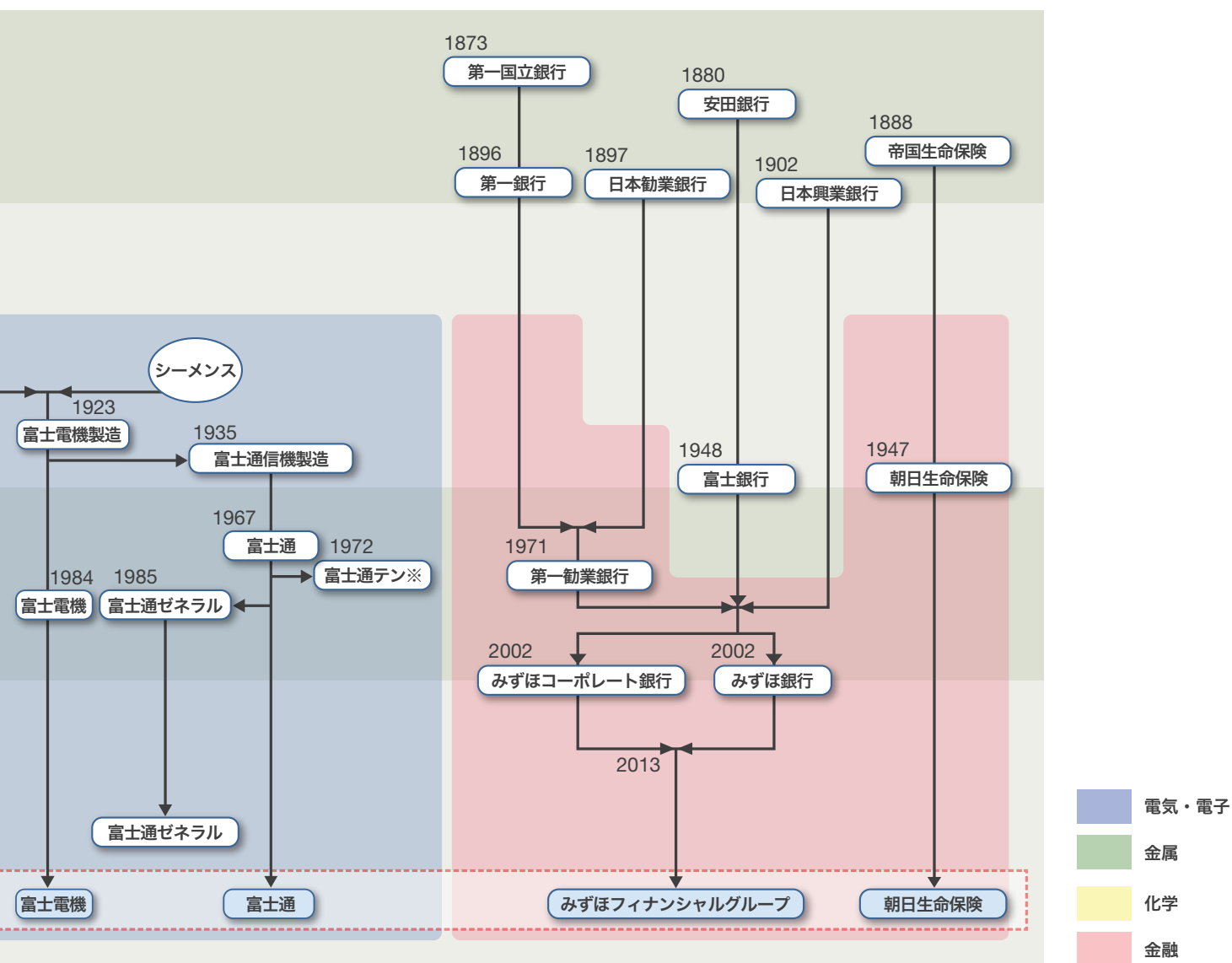
タイ・バンコク市内の通信網を整備



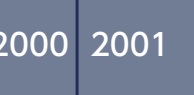
世界初光ファイバケーブルのフィールド試験に成功



グループ各社相互間の緊密なる協調を図り、それぞれの企業活動の強化促進に努めています。



※ 2017年に社名変更（現 株式会社デンソーテン）

 ルーセントテクノロジーズ社の光ファイバ部門 (OFS) 買収により、グローバルネットワーク構築に貢献	 米国高温超電導線材製造会社 SuperPower 社を買収	 「浮体式洋上風力プラント用超高圧ダイナミック海底ケーブル」開発業務を受注	 Blue-IR ハイブリッドレーザ「BRACE」販売開始	 「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」の炬火台用燃料として、バイオガスを原料とするグリーンLPガスを提供			
2000	2001	2003	2011	2018	2019	2020	2022
波長多重技術による大容量通信の整備に貢献 (1480nm帯域励起光源レーザ量産) 	欧州合同原子核研究機構より超電導線材で特別賞受賞 	世界最高水準のコア密度、細径超多心光ファイバケーブルを開発 	シリコンバレーに研究拠点を開設 	高温超電導線材を英国トカマクエナジー社の先進的小型核融合炉開発機 (ST-80) に納入開始  ©トカマクエナジー社			



古河電工 グループ



連結従業員数

52,757 名

(2024 年 3 月末)



グループ会社数

124 社^{※1}

(2024 年 3 月末)



連結売上高

10,565 億円

(2024 年 3 月期)

北米・中米

連結従業員数

5,294 名

グループ会社数

13 社

連結売上高

1,206 億円



アルゼンチン

南米・欧州^他

連結従業員数

2,800 名

グループ会社数

19 社

連結売上高

784 億円



中国

(香港を含む)

連結従業員数

3,622 名

グループ会社数

18 社

連結売上高

1,034 億円



日本

連結従業員数

10,646 名

グループ会社数

40 社

連結売上高

5,113 億円

アジア

(日本・中国を除く)

連結従業員数

30,395 名

グループ会社数

34 社

連結売上高

2,428 億円

※日本のグループ会社数には、単体が含まれます。
※地域別売上高は、顧客の所在地を基礎とし、
国または地域に分類しています。

※1：古河電気工業（株）単体、連結子会社109社
および持分法適用関連会社14社の合計

グループ概要はこちら⇒

<https://www.furukawa.co.jp/company/group/japan.html>





本社

東京都千代田区大手町2丁目6番4号(常盤橋タワー)

事業所

7拠点

(千葉事業所 / 日光事業所 / 平塚事業所 / 三重事業所 / 横浜事業所 / 銅箔事業部門(日光市) / 羽田事業場)

支社・支店

8拠点

(北海道支社 / 東北支社 / 中部支社 / 関西支社 / 四国支店 / 中国支社 / 九州支社 / 沖縄支店)

研究所

4拠点

(サステナブルテクノロジー研究所 / エレクトロニクス研究所 / フォトニクス研究所 / マテリアル研究所)

4つのコア技術で3つの事業セグメント 国内外に誇るシェアトップクラス製品群

3つの 事業セグメント

- ・インフラ
- ・電装エレクトロニクス
- ・機能製品



ワイヤハーネス
国内トップクラス



ステアリング・ロール・コネクタ
世界 No.1



鉄道車両用
アルカリ蓄電池
国内トップクラス



チップインダクタ用
極細平角線
世界 No.1

電装
エレクトロ
ニクス



自動車部品・電池



ステアリング・ロール・コネクタ

電装
エレクトロニクス
材料



銅線

伸銅品



メタル

高周波

4つの
コア技術

ポリマー

フォトリソ

機能製品



光ファイバ・ケーブル
世界トップクラス



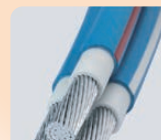
通信用波長可変光源
世界トップクラス



海底用電力ケーブル
国内トップクラス



海底用電力ケーブル



高性能型低圧アルミ導体
CVケーブル
国内 No.1

インフラ

情報通信
ソリューション



光ファイバ・ケーブル



送配電用製品



エネルギー
インフラ



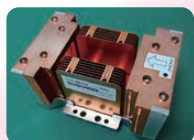
電力ケーブル



半導体製造用テープ



サマリウム製品



ヒートパイプ式
ヒートシンク
世界トップクラス



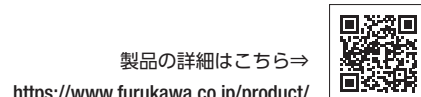
架橋発泡
ポリオレフィン
世界トップクラス



地中埋設用ケーブル保護管
「エフレックス」
国内 No.1



ハードディスクドライブ用
アルミブランク材
世界 No.2



製品の詳細はこちら⇒
<https://www.furukawa.co.jp/product/>

古河電工グループの研究開発・新事業創出活動

古河電工グループは、「地球環境を守り」「安全・安心・快適な生活を実現する」ため、情報/エネルギー/モビリティが融合した社会基盤の創出を目指し、研究開発に取り組んでいます。

研究開発活動

当社グループは、国内の当社研究所および海外には、OFS Laboratories, LLC、Furukawa Electric Institute of Technology Ltd. (FETI)、SuperPower Inc.、Silicon Valley Innovation Laboratories, Furukawa Electric (SVIL) 等の研究所を有しています。デジタルトランスフォーメーション&イノベーションセンター (DXIC) によりデジタル化を進めるとともに、ソーシャルデザイン統括部によりマーケティング・インキュベーション機能を強化し、積極的に新事業創出活動を推進しています。

海外拠点



OFS Laboratories, LLC
(米国：光ファイバ)



SuperPower Inc.
(米国：超電導)



FETI
(ハンガリー：解析)

国内拠点



横浜



平塚



千葉



本社



日光



今市



三重



滋賀



研究開発本部

企画統括部

(本社・横浜)

サステナブルテクノロジー研究所

(横浜・平塚)

エレクトロニクス研究所

(横浜・千葉・平塚・日光・滋賀)

フォトリソ研究所

(横浜・千葉・平塚・三重)

マテリアル研究所

(横浜・千葉・平塚・日光・今市)

超電導製品部

(日光)

知的財産部

(横浜・千葉・平塚・滋賀)

戦略本部

デジタルトランスフォーメーション&イノベーションセンター

(本社・横浜)

営業統括本部

ソーシャルデザイン統括部

(本社・横浜・千葉・平塚)

研究開発・新事業創出活動の詳細はこちら⇒
<https://www.furukawa.co.jp/rd/profile/index.html>



ビジョン2030の達成に向けた研究開発・新事業創出活動

Pick up!

社会インフラ維持管理ソリューション

古河電工独自のDX技術により、道路附属物管理の課題解決に貢献する「みちてん®」に加え、鉄道事業者向けに「てつてん®」も新たに開発。鉄道事業各社のスタイルに合わせた点検業務効率化に貢献します。



道路附属物維持管理ソリューション「みちてん®」シリーズ
<https://www.furukawa.co.jp/infra-maintenance/>

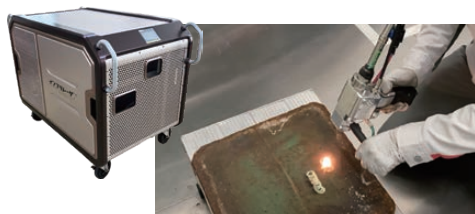


沿線設備維持管理ソリューション「てつてん®」
<https://www.furukawa.co.jp/tetsuten/>

Pick up!

インフラレーザ™

産業用レーザで培った技術を応用した表面処理ソリューションにより、鉄道・船舶や橋梁などのインフラ構造物の錆取り・塗膜除去などの人体や環境への負荷を軽減し、メンテナンス作業の効率化に貢献します。



インフラレーザ™による錆取り・塗膜除去

Pick up!

先進核融合原型炉向け高温超電導 (HTS) 線材

世界最初の実機規模を有する高磁場球状トカマク型核融合炉ST80-HTSで用いる高温超電導 (HTS) 線材の供給を始めました。社会課題解決型事業を推進し、持続的なエネルギーの承継に貢献します。

HTS :
High-Temperature Superconductivity



ST-80 マグネットコイルの製造

「事業強化と変革」に挑み、
さらに社会に役立つ
企業グループへと成長します。



古河電工グループは、本年、創業140周年を迎えることを機に、『つづく』をつくり、世界を明るくする。」というパーパスを制定しました。

そして、1884年の創業から今日まで、エネルギー、情報、熱を伝える、繋げる、蓄えることを事業の柱とし、「メタル」、「ポリマー」、「フォトニクス」、「高周波」の4つの技術力を核として、情報通信やエネルギーなどのインフラ分野、自動車部品分野、エレクトロニクス分野へ、多岐にわたる技術・製品・サービスを提供しています。

創業者である古河市兵衛の「従業員を大切にせよ、お客様を大切にせよ、新技術を大切にせよ、そして社会に役立つことをせよ。」という思いを継承し、当社グループの価値観である“Core Values”の体現、すなわち「正々堂々」とした姿勢で、「革新を志向」し、「本質を追究」しながら「主体的・迅速」に、そしてチームで「共創」して事業活動に取り組むことを通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。

不安定な世界情勢のもと、経済活動の低迷が懸念されています。一方で、様々な分野におけるDXの深化は加速しており、SDGs達成やカーボンニュートラル実現に向けた社会からの要請も益々大きくなっています。

当社グループが掲げる「古河電工グループ ビジョン2030」の達成に向けて、社会課題の解決に貢献する新しい技術・製品・サービスを創出し、事業の強化と変革に挑み、ステークホルダーの皆様との信頼をさらに強めて、ご期待に応えてまいります。

代表取締役社長

森平英也

商 号： 古河電気工業株式会社
社 長： 森平 英也
創 業： 1884年
設 立： 1896年6月25日
資 本 金： 69,395百万円（2024年3月末）
売 上 高： 1,056,528百万円（連結） 296,766百万円（単体）（2024年3月期）
従業員数： 52,757名（連結） 4,335名（単体）（2024年3月末）
本 社： 〒100-8322
東京都千代田区大手町2丁目6番4号（常盤橋タワー）



財務状況はこちら⇒
<https://www.furukawa.co.jp/ir/achievements/>

「古河電工グループ パーパス」を制定 ～「つづく」をつくり、世界を明るくする。～

古河電工グループは、創業140周年を迎えることを機に、「古河電工グループ パーパス」を制定しました。

古河電工グループ パーパス

「つづく」をつくり、 世界を明るくする。

日々の当たり前の暮らしが、安心・快適につづくこと。
今日よりも豊かな明日へ、社会の進歩・発展がつづくこと。
人と地球の共生が、いつまでも幸せにつづくこと。

よりよい未来へとつながる、そんな「つづく」を、
絶え間ないイノベーションで、つくり、支える。
それが、私たちの存在意義。

さまざまな社会課題に向き合い、
インフラをはじめ、あらゆる領域を超えて挑戦する。
1884年の創業以来、誠実に磨きつづけてきた、
技術力と提案力を強みに。

私たちは今日もつくりだす、未来への「つづく」を。
世界を明るくするために。

従業員一人ひとりが当社グループで働くことに誇りを持ち、
当社グループ全体のエンゲージメントの向上につながることを
期待して、当社グループの存在意義「パーパス」を制定し、
グループ理念体系を見直しました。パーパスの制定にあたって
は、次世代を担う若手従業員を中心に「パーパス制定プロジェ
クトチーム」を立ち上げ、国内外のグループ会社の従業員と
対話を重ねてまいりました。

このパーパスには、創業以来磨き続けてきた技術力と提案力を
強みとし、様々な社会課題に向き合い挑戦することで、よりよ
い未来へとつながる「つづく」をつくるのが当社グループの
存在意義である、との思いを込めています。また、創業者であ
る古河市兵衛の「日本を明るくしたい」という思いを継承しつ
つ、グローバルに事業を展開していることを鑑みた表現にして
います。



「古河電工グループ パーパス」のページはこちら⇒
<https://www.furukawa.co.jp/purpose/>

※表紙には「古河電工グループ パーパス」のデザインを使用しています。

社外からの評価

当社のESGに関する指数への組み入れ状況、社外からの評価・認証などについて紹介します。(2024年7月31日現在)

ESG 指数

FTSE Blossom Japan Index Series

当社は、FTSE Russellの「FTSE Blossom Japan Index Series」の構成銘柄に選定されています。

FTSE Blossom Japan Index Series <https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>



MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数(※)

当社は、MSCIの「MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数」に選定されています。

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数 <https://www.msci.com/our-solutions/indices/nihonkabu-esg-select-leaders-index>

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index (GenDi J)

当社は、「Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index (GenDi J)」の構成銘柄に選定されています。構成銘柄は、スコア順に5段階のグループに区分されており、当社は上から3つ目の「Group 3」に分類されています。

S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数

当社は、「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に選定されており、中インパクト産業グループである「資本財」において、十分位数分類「8」、カーボン情報の開示ステータス「開示」、TCFDの枠組み「統合」と評価されています。



ESG 評価・認定

SBT (Science Based Targets)

当社グループの2030年温室効果ガス削減目標は、SBT (1.5°C) に認定されています。



CDP

当社は、2023年に実施されたCDP気候変動、水セキュリティおよびCDPサプライヤーエンゲージメント(SER)においてすべて「A-」の評価を取得しました。

MSCI ESG格付け(※)

当社は、MSCI ESG格付け評価において、「BBB」を獲得しています。



(※) 古河電気工業株式会社のMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による古河電気工業株式会社への後援、保証、販促には該当しません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名称およびロゴはMSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

イニシアチブ賛同

国連グローバル・コンパクト

当社は、2020年2月24日に国連が提唱するグローバル・コンパクトに署名しました。当社グループは、今後もグローバル企業として、国連グローバル・コンパクト10原則の尊重と実現、SDGsの推進に取り組んでいきます。また、当社は、2020年9月に国連グローバル・コンパクトから国連事務総長に提出された、政府や民間企業のさらなる結束を促す「新たなグローバル協調のためのビジネスリーダーの声明」にも賛同し、署名しました。



気候関連財務情報開示タスクフォース

当社は、2020年1月に気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures)の提言に賛同しました。



持続可能な開発目標 (SDGs)

当社は、国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



詳細は
当社ホームページを
ご覧ください。

「社外からの評価」

<https://furukawaelectric.disclosure.site/ja/themes/109>



「イニシアチブ賛同」

<https://furukawaelectric.disclosure.site/ja/themes/110>



古河電気工業株式会社 <https://www.furukawa.co.jp/>

本社 〒100-8322 東京都千代田区大手町2丁目6番4号(常盤橋タワー) TEL. (03) 6281-8500(代表)

古河電工は
ジェフユナイテッド市原・千葉
を応援しています。



- ・このカタログの記載内容は2024年7月31日現在のものです。
- ・このカタログの内容は断りなく変更することがありますのでご了承ください。
- ・このカタログに記載されている会社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

輸出管理規制について

本書に記載されている製品・技術情報は、我が国の「外国為替及び外国貿易法並びにその関連法令」の適用を受ける場合があります。また、米国輸出管理規則(EAR: Export Administration Regulations)の適用を受ける場合があります。本書に記載されている製品・技術情報を輸出および再輸出する場合は、お客様の責任および費用負担において、必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては、経済産業省 または 米国商務省へお問い合わせください。